

越前蟹と水仙の文学コンクール入賞者 大賞作品

テーマ おくりもの

今年のコンクールには、詩部門に429編、俳句部門に3932句が寄せられ、両部門で大賞、奨励賞、佳作のほか、越前町商工会長賞、越前丹生農業協同組合長賞、越前町漁業協同組合長賞、今回から新設された越前町観光連盟会長賞が選ばれました。



俳句部門（小学生の部）
大賞
兵庫県梶台小学校 四年 藤 涛 拓郎
「水仙の香りで家が花畑」

奨励賞
織田小学校 一年 大川 夏輝
織田小学校 一年 駒 野 以 露
佳作
宮崎小学校 三年 山 内 湧 月
朝日小学校 五年 田 中 知 夏
国高小学校 四年 石 原 崇 大

俳句部門（中学生の部）
大賞
宮崎中学校 一年 瀬 戸 華 恋
「ありがとうこれが自まんの越前がに」

奨励賞
宮崎中学校 三年 帰 山 莉 瑠
織田中学校 三年 増 田 梨 乃
宮崎中学校 二年 芝 芽 衣 子
宮崎中学校 二年 中 西 海 七 翔
宮崎中学校 三年 古 川 茉 宏

俳句部門（高校生の部）
大賞
仁愛女子高等学校 一年 清 水 歩 美
「水仙を香りとともに送り出す」

奨励賞
丹生高等学校 二年 森 下 和 斗
丹生高等学校 一年 渡 辺 南
佳作
福井県立盲学校 一年 和 泉 照
仁愛女子高等学校 一年 田 島 美 奈
仁愛女子高等学校 三年 山 口 梨 絵

俳句部門（一般の部）
大賞
大分県大分市 岸 本 恵 美
「越前蟹父母の傘寿の祝い膳」

奨励賞
岐阜県高山市 直 井 照 男
福井県越前市 中 山 昭 子
福井県越前市 泉 市 橋 敏 直 樹
福井県越前市 福 井 県 越 前 町

詩部門（小学生の部）
大賞
常磐小学校 三年 藤 井 音 々
「すいせんのやさしいかおり」
十二月に入ったある日、
部屋にかざられていた水せんを
ながめながら、
サンタさんへの手紙をかいた
「サンタさんへ
ことしのプレゼントは、花のずかんが
ほしいです。 ふじいねねより」
と水せんのイラストをいっしょにかいて
つくえの上においた。
クリスマス朝、まくらのそばには、
プレゼントといっしょに水せんが
あった。
水せんのやさしいかおりにつつまれながら、
プレゼントをあげると、
おねがいは花のずかんが
うれしくて、ずかんと水せんを家族に
するとお母さんが
「水せんは、おし花にしてしおりにしたら
どうかな。」
と、言った。
私は、水せんのしおりを2まいつくった。
1まいは、自分用。
もう1まいは、
サンタさんへのおくりもの
来年のサンタさんのお手紙の中に
いっしょに入れよう
ありがとうの気持ちをこめて……

奨励賞

織田小学校 二年 小 林 直 美
朝日小学校 六年 芝 田 悠 揮

佳作

朝日小学校 六年 時 田 莉 心
四ヶ浦小学校 二年 荒 木 駿 平
朝日小学校 二年 木 原 莉 愛 菜

詩部門（中学生の部）

大賞

越前中学校 三年 勝 見 凜

「水仙の思い」

冬になると
おばあちゃんが
水仙を摘んでくる

「ただいま」

おばあちゃんが
帰ってきた
家中に広がる
水仙の香り
おばあちゃんが
帰ってきた

「おかえり」

おばあちゃんと
水仙を運ぶ
部屋中に広がる
水仙の香り
おばあちゃんと
水仙を眺める

詩部門（高校生の部）

大賞

仁愛女子高等学校 一年 清 水 歩 美
「水仙を香りとともに送り出す」

奨励賞
丹生高等学校 二年 森 下 和 斗
丹生高等学校 一年 渡 辺 南
佳作
福井県立盲学校 一年 和 泉 照
仁愛女子高等学校 一年 田 島 美 奈
仁愛女子高等学校 三年 山 口 梨 絵

俳句部門（一般の部）

大賞

大分県大分市 岸 本 恵 美
「越前蟹父母の傘寿の祝い膳」

奨励賞

岐阜県高山市 直 井 照 男
福井県越前市 中 山 昭 子
福井県越前市 泉 市 橋 敏 直 樹
福井県越前市 福 井 県 越 前 町

詩部門（高校生の部）

大賞

仁愛女子高等学校 三年 山 口 梨 絵
「蟹のたましい」

裸電球の漁港では

沢山の人たちに迎ええられる
早速「越前蟹」とかかれた
黄色い婚約指輪が送られた
港では合同結婚式の
祝の蟹まつりが始まる
人々はその味を称賛し
そして魅了される

うずたかく積まれた殻

そこには蟹の魂が宿っている
私たちの魂は
生きた証として
自らの生命を誇示するため
夜毎に天空をめざす

果てしなく広い

宇宙を這いまわり
得意の横歩きを駆使しながら
気の速くなるような日々
蟹座を求めて
さまよいあるく

そして

ようやく蟹座にたどりつく
今は第五星座だけに
いつか煌々と輝く
その日を夢見て
今日もたくさんの

魂が集まってくる

その輝きはまだ幼く
東の双子座にも
西のしし座にも及ばないが
いつかきつと
あの日贈られた
婚約指輪の文字をかざし
プライドをもって
オリオン座や
天狼星のように
みんなの魂で
光り輝く冬の星座になり
かに座の夢と光を
地上に届けたい

奨励賞

仁愛女子高等学校 三年 私 市 琴 野
兵庫県立尼崎高等学校 三年 今 村 梨 穂

佳作

兵庫県立尼崎高等学校 三年 納 清 香
兵庫県立尼崎高等学校 三年 田 村 百 花
仁愛女子高等学校 三年 中 道 冴 依

※学校名・学年は表彰式当時のものです。

詩部門（一般の部）

大賞

滋賀県湖南市

原馬正文

「母の水仙」

母は畑仕事が好きだった
 二十六歳で農家に嫁ぎ
 毎日畑に通っていた
 父が亡くなった次の年
 天地返しで腰の骨を傷め
 半年間入院した
 退院してからは
 畑に行けなくなり
 外出もしなくなり
 認知症になった

私の顔を見ると
 いつも尋ねてくる
 「あなたは、だれやったかな？」
 「母さんの息子や……」
 チラシの裏に
 家族の名前を書いて
 「ぼくは次男や、名前は○○……」
 いつも初対面のように、自己紹介をする



母の古いアルバムの中に
 結婚式の白黒写真がある
 「母さん、昔はべっぴんさんやったな
 この人が、死んだおやじや
 おとこまえやな……」
 「ほんまやな、わたしのむこさん

なんて、なまえやったかな？」

冬がくると、母の畑は枯れ草で埋まる
 母が「べっぴんさん」だったときに植えた
 水仙だけが、畑の隅に咲いている
 吹雪のなかに
 凍てつく大地に
 白い花が咲いている

母の椅子の横に、水仙の花束を飾った
 九十二歳の母がつぶやいた
 「おおきに、ありがとう
 この花、だれがくれたはったんや？」
 この可憐で凛然とした、水仙の花は
 若き日の母から
 年老いた母への
 おくりものなのだ

水仙は、実も種も遺さない
 しかし、地中に埋もれた球根には
 母の半生と、同じ歳月の記憶が
 いっぱい詰まっている

母が陽の当たる、縁側で眠っている
 群れ咲く水仙の妖精たちが
 白いドレスと、黄色いリボンを揺らせて
 踊っている
 母の命の球根の
 無数の記憶たちが
 夕映えの沃野で
 踊っている

奨励賞

兵庫県朝来市

林 賀 愛 美

福井県坂井市

雑 賀 恵

佳作

大阪府吹田市

榎 野 博

新潟県長岡市

涌 井 悦 子

島根県雲南市

小 林 延 子

越前町商工会長賞（俳句部門）

城崎小学校

六年 別 司 帆乃花

宮崎中学校

三年 西 村 太 陽

丹生高等学校

三年 橋 本 由 羅

越前丹生農業協同組合長賞（詩部門）

四ヶ浦小学校

五年 三 上 湧

越前中学校

一年 竹 内 瑠 那

福井県立盲学校

二年 小 林 倫 大

越前町漁業協同組合長賞

俳句部門（一般の部）

福井県敦賀市

大和田 康 夫

俳句部門（一般の部）

福井県越前町

安 井 正 子

越前町観光連盟会長賞

俳句部門（一般の部）

福井県鯖江市

寺 島 直 秋

俳句部門（一般の部）

福井県越前町

水 頭 浅 美



表彰式当日は、「トークショー」詩を楽しむためのヒントも開かれ、審査員を務めた川上明日夫さんから3人の先生に詩の作り方のヒントをわかりやすく教えていただきました。

参加されたみなさんは、選ばれる作品のコツを学ぶことで、さらに次の作品への制作意欲が高まったようでした。

問合せ先 生涯学習課 ☎34-2000

